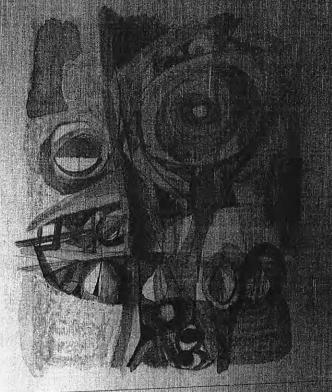
時代位

戸坂淵に舞台上から励る

『年劇場「真理の勇氣」に著せて



歴史的存在としての「共産主義」運動

■コミンテルンの伝統と遺産…	
■ コーノノリレン ウルルルロー	

- ■マルクス・レーニン主義哲学はいかに克服されるべきか
- ■中国共産党の歴史的役割とその限界―中国共産党はなぜ自己変革できないのか
- ■アジアにおけるコミュニズム──日本共産党の100年/101年を考察する構成・
- ■コミンテルンとイタリア社会党――忘れられた党首G・M・セッラーディ再評価
- ■社会民主主義左派の可能性――ポスト赤緑連立期ドイツ社会民主

第96号 発行日2022年12月3日 東京唯物論研究会 発行人 鈴木宗徳

唯物論

2022.12 **96** 東京唯物論研究会

ISBN978-4-905309-15-4 C9002 ¥1000E 実費販価 ¥1,000

鈴木 宗徳

巻頭言

歴史的存在としての 「共産主義」運動

三崎 ホ	反ユダヤ主義の〈原史〉 ――『啓蒙の弁証法』の成立過程から 三崎 和志	社会民主主義左派の可能性 ―― ポスト赤緑連立期ドイツ社会民主党を中心に 小野	コミンテルンとイタリア社会党 —— 忘れられた党首 G・M・セッラーティ再評価 …		中国共産党の歴史的役割とその限界 ―― 中国共産党はなぜ自己変革できないのか …	マルクス・レーニン主義哲学はいかに克服されるべきか	コミンテルンの伝統と遺産】	- 趣意書 平子 友長·大倉
	三崎	小野	藤岡	黒川	石井	岩佐	加藤	大倉
	和志	_	寛己	伊織	知章		哲郎	茂
		102	85			100.15	1	

特

集

近代理性の

再審

松田博著『グラムシ「未完の市民社会論」の探究-自己形成する物質としての大衆 初期マルクスのヘーゲル哲学史読解と唯物論…… 柏崎 正憲 - 「獄中ノート」と現代 ―』

133

研究論文

(あけび書房、二〇二一年) …………… 高屋正一

148

ーマス・セドラチェク、 デヴィッド・グレーバー著

聞き手:ロマン・フルパティ、 三崎和志、 新井田智幸訳

『改革か革命かー 人間・経済・システムをめぐる対話』(以文社、二〇二〇年)……… 大倉 茂

150

Pablo Pulgar Moya 著

Die kritische Darstellung der Gesellschaftsformation

書

評

Systematische Untersuchungen zur Marxschen Methode (Duncker&Humblot, Berlin 2021)

岡崎

龍

152

隆

154

初期マルクスのオリジナリティ』

渡辺憲正著『「ドイツ・イデオロギー」 の研究 (桜井書店、二〇二二年) ………… 島崎

156 研究会活動一年間の記録 157 規約 159 編集規定と投稿要領 162 編集後記

164

活動紹介

6

屋

そして日本における社会民主主義と共産党の変貌を統一的に把握す る「スターリン主義」の果たした役割、コミンテルンの歴史的功罪 産党」が権力を獲得し社会主義体制を樹立した国家類型としては、 る手掛かりとなろう。 の解明を不可欠とする一方、この歴史をふまえることは、依然とし してアクチュアルな問題となる。この歴史的存在の分析は、 て歴史的存在としての「共産主義」運動とは何であるかは、依然と グローバリゼーションと関わりつつ、戦争、内戦をくぐりぬけて「共 との関連において、これらの名称はいまだ想起されざるをえない。 主義インターナショナル(第三インターナショナル、コミンテルン) しかしユーラシア大陸各国に目を向ければ、歴史的に存在した共産 ソ連社会主義の歴史との差異をはらむ共通性を有する。ここにおい 会主義」あるいは「コミュニズム」という名が再び聞こえてくる。 たとえば世界第二位の経済大国となった中国は、 近年、資本主義に対する批判的論調の中で、英米圏では民主的「社 今日の西欧社会民主主義、ソ連・東欧・中国の社会主義体制、 一方では資本の

他方において、民主的「社会主義」さらには「コミュニズム」とい 的正当化において「社会主義」・「共産主義」という言葉が用いられた。 た軍事指導者が、その後の権力的地位を保持し、そのイデオロギー とりわけソ連、 中国では、革命戦争において国家権力を獲得し

も示唆している。この入り組んだ状況を解きほぐすための社会科学的認識が求められる。 う言葉への再注目は、その運動としての「社会主義」・「共産主義」がその歴史的生命力を保持させている可能性

本特集は、このような問題意識に立って、改めて二〇世紀の経験としての「共産主義」運動を多面的な視角

のテキスト解釈を払拭できていないという問題意識から、 ニン主義哲学はいかに克服されるべきか」では、現在もマルクス・レーニン主義のバイアスのかかったマルクス ンテルンの伝統の一部がさまざまに現代社会にも残されていることが論じられている。岩佐茂氏「マルクス・レー から分析するものである。 国における一九二〇年代の政治的動向が中国革命論のパラダイム変換がなされ、その結果が現在の習近平体制に 党首G・M・セッラーティ再評価」では、これまで否定的に論じられることが多かったセーラッティに光をあて、 日本共産党の歴史を考察する視点を提示している。藤岡寛己氏「コミンテルンとイタリア社会党-年/一〇一年を考察する視点」では、「コミュニスト」の歴史的経験を紡ぐ作業を続けてきた筆者が、学問的に され、課題が多い中でどのような展望がもてるのかが論じられている。 「現場からのたたき上げ左翼組織人」たる新たな評価軸を見いだしている。小野一氏「社会民主主義左派の可能 いかにつながっているかが論じられている。黒川伊織氏「アジアにおけるコミュニズムー いる。石井知章氏「中国共産党の歴史的役割とその限界-加藤哲郎氏「コミンテルンの伝統と遺産」では、コミンテルンならびにその研究をたどっていくことで、コミ -ポスト赤緑連立期ドイツ社会民主党を中心に」では、社会民主主義、さらにはその左派の理論的検討がな いかにそのバイアスを乗り越えていくかが論じられて -中国共産党はなぜ自己変革できないのか」では、中 ―日本共産党の一〇〇 ― 忘れられた

考えるきっかけになることを祈る。 ることは現在を語ることでもある。 本特集は、特集タイトルの通り、 「共産主義」運動の歴史に焦点が当てられている。しかしながら、歴史を語 本特集が現代社会の「共産主義」運動はいかにあるべきかを読者の皆さまが (平子友長・大倉茂)

唯物論 96 号 2022.12

を持っており、

いくつかの書物にしてきた。強いていえば、「共産党」とを持っており、歴史的実在としての日本共産党について、

「公式党史」を「神話」とみて根本的疑問

はじめに

コミンテルンの伝統と遺産

加藤 哲郎

VAVAVAVAV VAVAVAVAVA AVAVAVAVAVA

別の病因で、新稿執筆が不可能になった。 た日本の防疫体制と感染症「専門家」及び「ワクチン村」 への人的継承の問題を指摘してきた。 七三一部隊の影、世界で初めて人体実験と細菌戦を実行し 学』を出して、 ナ感染下で、初年度の二○二○年に『パンデミックの政治 ナウィルス感染の第六波が始まる頃だった。世界的なコロ 本特集への寄稿を頼まれたのは、日本における新型コ 日本の感染症対策に見られる戦時関東軍 しかし、コロナとは U

精密検査を受けたところ、放置すると生命に関わる腹部動 二〇二二年のコロナの第六波が下火になり第七波に向か 五月連休明けに人間ドックで見つかった心臓病の

> なったと編集部にお伝えした。 用の外出もできず、二〇二二年夏は、 昇降が禁止され、 静養とリハビリの生活に入った。医師から荷物運搬・階段 手術などで入退院を繰り返し、さらに大きな手術を控えて 脈瘤が見つかり入院、人工血管埋め込み手術、冠動脈拡張 第一次手術からの退院後、本特集への寄稿は無理に 書斎も書庫も使えなくなった。図書館利 一切の執筆や講演を

何とか本特集に寄稿できないかと打診された。集部からは、この既発表論文を加工し「再使用」してでも、 るので、私の考えについてはその参照を求めたところ、編 規律の幻影、民衆連帯のパラダイム転換」という論文があ ン創立一〇〇年、研究回顧五〇年 研究』誌第二九号(二〇二一年)に発表した「コミンテル そのさい、本特集の主題に関連しては、『初期社会主義 -革命的暴力·軍隊的

じめに」と「おわりに」を加えたのが本稿である。 手術からの退院後、なんとか『初期社会主義研究』編集委 員会の了解を得て、同誌既発表論文の骨格を本論とし、「は れた紙数の限りで努力するとしか言えなかったが、 すでに第二次手術が予定されていた時期なので、 与えら

彰らの著書が刊行されており、それに対するコメントも求 様式が深く根付いていた。つまり、民主集中制が党組織ば を東独ドレスデンで体験した共産党員としての体験・思考 育った歴史的事情が、その独裁的指導に体現されている。 かりでなく国家組織・経済組織にも浸透していた時代に は、ソ連邦時代にKGBの諜報員となりベルリンの壁崩壊 ルンの伝統と関連づけるとすれば、プーチンの帝国主義に も日本共産党の創立が一九二二年七月一五日であったとす ついては、 められたが、これもお断りした。私自身はそうした問題に の余裕もなく、 侵略戦争に伴う国際政治の再編成についての考察は、紙数 また、コミンテルン日本支部として出発した日本共産党 一〇〇年を迎えたとのことで、中北浩爾・佐藤優・池上 ただし、 コミンテルン側第一次資料の研究から、そもそ 編集部から要望のあったプーチンのウクライナ 本稿の範囲外と判断した。強いてコミンテ

> 共産党の限界を示しているだろう。ル・ゴルバチョフへの歴史的評価が、おそらく今日の日本 り以前に放棄されている。二○二二年に亡くなったミハイ 産」が見られるが、「世界革命」や「唯物史観」は、かな 原理としての「民主集中制」に「コミンテルンの伝統と遺 いう党名、「赤旗」「前衛」という機関紙誌名、それに組織

りに」で補足を加えておく。関わる第二章から第八章の骨格を本誌用に再録し、「おわ 五〇年」の中から、直接「コミンテルンの伝統と遺産」に 第二九号の拙稿「コミンテルン創立一○○年、研究回顧 以下では、全一○章で構成された『初期社会主義研究』

コミンテルン創立一〇〇年と 世界の社会運動研究

コミンテルン研究ワークショップに誘われたが、 ントはなく、ゾルゲ事件研究の関係でモスクワでの小さな 語られなかった。学術的にも社会運動としても大きなイベ ン(共産主義インターナショナル、第三インターナショナル、 はいくつかの国際会議や出版物があったが、コミンテル から一〇〇年だった。二〇一七年のロシア革命一〇〇年に 一九一九一四三年)の一○○年については、ほとんど何も 二〇一九年は、コミンテルン創立大会(一九一九年三月)

降、出ていないようである。 (で) ステファヌ・クルトワ他『共産主義黒書』(一九九七年) 以 ジェレミ・アグニュー『コミンテルン史』(一九九六年)、 た。大きな通史的研究背も、ケヴィン・マクダーマット&

(一九二三年~社会主義労働インター、一九五三年~社会主義

10

け継がれる社会主義政党レベルでの国際連帯が制度化した 働者政党が加わり、今日の欧州連合(EU)議会にまで受 第二インターの段階で、各国労働組合に各国社会主義・労 年)に受け継がれた。まだヨーロッパの規模であったが、 スの死後、第二インターナショナル(一八八九-一九一四 裂で社会主義の国際連帯の第一波は終焉するが、マルク 入っていた。最終的にはバクーニン派アナーキズムとの決 同組合の流れも、サン・シモン主義も、労働組合主義者も 設されたのが、国際労働者協会=第一インターナショナ ル(一八六四-七六年)だった。マルクスも総評議員の一 命を受けて、「万国の労働者、団結せよ」を体現すべく創 人として加わっていたが、初期社会主義のオーウェン風協 ンテルンは「第三インターナショナル」だった。マルクス 方が、「一○○周年」で意味づけられているようである。 = エンゲルス『共産党宣言』と一八四八年ヨーロッパ革 大会よりも、一九二〇年七月のコミンテルン第二回大会の みつかった。どうやら一九一九年三月のコミンテルン創立 それには理由がある。今や常識ではなくなったが、 ただしウェブ上で検索すると、いくつか興味深い事実が コミ

> 的指針となり、世界革命が夢想された。 たらしたドイツ帝政打倒=ワイマール共和制移行が、 ヴィキ党に指導されたロシア革命と、「敗戦国革命」をも の背景となった。「戦争を内乱へ」導くレーニンとボリシェ の分裂と崩壊」として、第三インター=コミンテルン設立 争に反対できず、労働者階級を戦場に送ったことが、「プ ロレタリア国際主義の裏切り」「第二インターナショナル にあたって、主力のドイツ社会民主党をはじめ、自国の戦 その第二インターナショナルが、第一次世界大戦の開戦和の問題では、世紀の変わり目に、大きな役割を果たした。 インター、一九九二年~EU議会内欧州社会党)。 特に 反戦平

は加わらず、大会では「棄権」した。 ていた。しかしローザの遺訓を守り、コミンテルン創立に ローザ・ルクセンブルクとカール・リープクネヒトを失っ スパルタクス団から名前を変えたばかりで、 は九名のみだった。最も重要な組織であるドイツ共産党は、 ループにあてられたが、参加した五一名中ロシア国外から 開かれた。一月の招待状は、三九の共産主義組織・革命グ コミンテルン創立大会は、一九一九年三月にモスクワで 一月に指導者

方は必要と確認されたが、それがボリシェヴィキ型の「新 しい型の党=共産党」「単一世界政党」となることは、 第二インターナショナルとは別の新しい国際連帯のあり

受けて、 アピールであった。 お未決であった。創立大会の意義は、むしろロシア革命を 各国に支部=共産主義政党を作ることについての

前衛党に、コミンテルンの残した伝統の意義を見出してい を持たない「ウェブ上の前衛党」である。彼らは、コミン ニン主義)、トルコ共産党などは、ほとんど大衆的影響力 主義」の内実であった。今日コミンテルン一〇〇年を記念 れが、ロシア革命を範とした、当時の「プロレタリア国際 指導部と一般党員との関係にも、適用されるとされた。そ 部・執行委員会と各国支部=各国共産党との間にも、各国 の採用が義務づけられた。しかもそれは、コミンテルン本 二インター=社会民主主義との完全な訣別のうえに、「鉄 界大会で定められた。かの「二一ヵ条の加入条件」で、第 テルンが提示した軍隊型規律で結ばれた少数精鋭の集権的 しているアメリカ共産党、インド共産党(マルクス・レー の規律」の「民主主義的中央集権制(以下、民主集中制)」 その具体的なあり方は、一九二〇年七-八月の第二回世

義政党の支配国家が中国・北朝鮮・ベトナムであり、 係ないキューバを除くと、今日の世界に生き残った共産主 一つの意義がある。それは、もともとコミンテルンとは関 の創設にあったが、 コミンテルン第二回大会の主要な意味は「新しい型の党」 一〇〇周年にあたり顧みられた、

> 民地での労働運動と民族解放運動との結合が、第二回大会 議場でのレーニン=ロイの論争以来提唱されていた。 本国でのプロレタリア革命にばかりでなく、半植民地・植 インターとは異なる第三インターの特徴として、帝国主義 延長上で作られたアジアの共産党の末裔であることと関係 らはいずれも第二回大会の「民族・植民地問題テーゼ」の それまでの第一インターナショナル、

としての共産党結成とは「政治の始まり」を意味した。 九一年にほぼ解体し、または社会民主主義政党に復帰して た旧ソ連・東欧圏とヨーロッパ諸国の共産党が一九八九ー 代に党創立一○○周年を迎える。コミンテルンの中核だっ 第二回大会の前後に初めて非合法で結成され、二〇二〇年 ルン一〇〇周年を積極的に顕彰する気配はない。 かったアジア・中東・中南米地域では、コミンテルン支部 いったのに対し、もともと労働運動も社会民主主義も弱 意味での「世界革命」へのあこがれ=幻想が残るのである。 中国・北朝鮮・ベトナムがあるがゆえに、コミンテルン的 ループにとっては、ソ連・東欧社会主義はなくなっても、 いまなお前衛党と武力による革命にあこがれる群小左翼グ ただし、日本共産党を含むアジアの共産党が、コミンテ 何よりも、アジアの共産党の多くは、このコミンテルン

―― 日本資本主義論争と世界変革の夢二、私がコミンテルン研究を志した頃

集」(大月書店)が一九七八年から出はじめていた。 私がコミンテルンを直接の研究対象としたのは、 私がコミンテルンを直接の研究対象としたのは、 私で、政治学の助手論文を書いていた。名古屋大学図書館とで、政治学の助手論文を書いていた。名古屋大学図書館とで、政治学の助手論文を書いていた。名古屋大学図書館とで、政治学の助手論文を書いていた。名下・フェリトリネッリ社の復刻資料集が入っていた。各下・フェリトリネッリ社の復刻資料集が入っていた。各下・フェリトリネッリ社の復刻資料集が入っていた。各下・フェリトリネッリ社の復刻資料集が入っていた。各下・フェリトリネッリ社の復刻資料集が入っていた。各下・フェリトリネッリ社の復刻資料集が入っていた。各下・フェリトリネッリ社の復刻資料集が入っていた。各下・フェリトリネッリ社の復刻資料集が入っていた。各下・フェリトリネッリーは、当時のコミンテルン研究の第一次資料にあるイタリー、日本にも紹介され、村田陽一編「コミンテルン資料を主義インターナショナル概史」(上下、大月書店、一九七三年)をして日本にも紹介され、村田陽一編「コミンテルン資料として日本にも紹介され、村田陽一編「コミンテルン資料として日本にも紹介され、村田陽一編「コミンテルン資料として日本にも紹介され、村田陽一編「コミンテルン資料を主義インターナショナルを書」といる。

び、特に野呂栄太郎の理論に惹かれていた。卒業後の大ケードの中で、マルクス主義理論と日本資本主義論争を学も一九六八-六九年東大闘争の無期限ストライキのバリそこには前史がある。私自身は学生時代、というより

問題を見出した。

ように思えた。 学だけは、なぜか「三二年テーゼ」を金科玉条にしている学だけは、なぜか「三二年テーゼ」を金科玉条にしているに転換するのであったが、戦後の日本共産党と日本の歴史

を従属させるものだった。 を従属させるものだった。

きく異なる世界史把握が生まれていた。私は、コミンテルフランク、サミール・アミンらの従属理論など、レーニンレビッシュ報告)にも影響を与えたアンドレ・グンダー・ウォーラーステインの世界システム論や国連開発計画(プ 私がコミンテルンを批判的対象とした頃、イマニュエル・

ラーステインに惹かれていた。タインをも読み直し、現代世界の認識枠組としては、ウォールクセンブルクを学び、「背教者」カウツキーやベルンシュン時代の非正統理論であるアントニオ・グラムシやローザ・

三、統一戦線・人民戦線の「トロイの木馬」的限界

私が一九七○年代にコミンテルンの研究を始めるにあるが一九七○年代にコミンテルンの「反ファシズム統一戦線」とコミンテルンの「反ファシズム統一戦線」のディミトロフ書記長報告、いわゆる反ファシズム統一戦線」のディミトロフ書記長報告、いわゆる反ファシズム統一戦線に対派総粛清と、先進国でのファシズムに抵抗する社会に反対派総粛清と、先進国でのファシズムに抵抗する社会に表に、いまひとつひっかかったのは、ソ連における「スターリン粛清」とコミンテルンの「反ファシズム統一戦線」を対派総粛清と、先進国でのファシズムに抵抗する社会に表が、対域を含む「幅広い」共闘が両立しえたのか、それが疑定対派総粛清と、先進国でのファシズムに抵抗すると、といるに対している。

系譜のネオ・マルクス主義の百家争鳴があった。日本でも、S・ホールら「西欧マルクス主義」「ユーロ・コミュニズム」N・プーランザス、E・ラクラウ、C・ムフ、B・ジェソップ、マス、J・ヒルシュ、C・オッフェ、L・アルチュセール、があり、J・ルカーチ、A・グラムシらの再読、J・ハバーが最には、いわゆるユーロ・コミュニズムの政治的台頭背景には、いわゆるユーロ・コミュニズムの政治的台頭

12

ていた。 位置づけたイタリア共産党トリアッチらの文献が紹介され位置づけたイタリア共産党トリアッチらの文献が紹介され政府成立を可能にしたトレーズ、「平和主義」を肯定的にためか、ディミトロフ報告以外にも、フランスで人民戦線スターリン主義時代のコミンテルンの負の遺産を清算するスターリン主義時代のコミンテルンの負の遺産を清算する

では、いわゆる「社会ファシズム」論や「左翼を読み進めると、いわゆる「社会ファシズム」論や「左翼を読み進めると、いわゆる「社会ファシズム」論や「左翼を読み進めると、いわゆる「社会ファシズム」論や「左翼を読み進めると、いわゆる「社会ファシズム」論や「左翼がわかった。

論を大衆組織や民主主義・自由主義諸党派にまで拡延したた。統一戦線政府レベルでは、共産党の指導性を確保してプロレタリア独裁を実現していくための第一歩という位置プロレタリア独裁を実現していくための第一歩という位置プロレタリア独裁を実現していくための第一歩という位置プロレタリア独裁を実現していく、大産党の指導性を確保してプロレタリア独裁を実現していく「トロイの木馬」理論部から共産党の影響力を広めていく「トロイの木馬」理論があった。いわゆる「平和主義の再評価」も、実際にはソウルであった。いわば、社会民主主義の指導することであった。政党レベルでは、社会民主主義の指導する。社会民主主義の影響下にある労働者を共産党側に獲得も、社会民主主義の影響下にある労働者を共産党側に獲得も、社会民主主義の影響下にある労働者を共産党側に獲得も、社会民主主義の影響下にある労働者を共産党側に獲得を大衆組織や民主主義の影響下にある労働者を共産党側に獲得も、社会民主主義の影響下にある労働者を共産党側に獲得を対象を表述している。

として実現されることになった。会主義国家で、事実上の共産党独裁になる「人民民主主義」一九四五年第二次世界大戦でのソ連占領地域での中東欧社戦線では短命に終わり、実際にはコミンテルンの解散後、戦線をは短命に終わり、実際にはコミンテルンの解散後、人民戦線論は、一九三〇年代のスペイン、フランス人民人民戦線論は、一九三〇年代のスペイン、フランス人民

とコミンテルン秘密文書の公開まで待たなければならなころまでつきとめた。その真相の最終的究明は、ソ連崩壊の川上武と共に、ドイツで一緒だった有沢広巳・千田是の川上武と共に、ドイツで一緒だった有沢広巳・千田是の川上武と共に、ドイツで一緒だった有沢広巳・千田是の川上武と共に、ドイツで一緒だった有沢広巳・千田是度に入党し、日本に帰らず、そのままモスクワに亡ツ共産党に入党し、日本に帰らず、そのままモスクワに亡党者に入党し、日本に帰らず、そのままモスクワに亡党者を関係史のなかで、文部省派遣でドイツに留学していた国崎関係史のなかで、文部省派遣でドイツに留学していた国崎関係史のなかで、文部省派遣でドイツに留学していた国崎関係史のなかで、文部省派遣で持たなければならな

多数が粛清されたことがわかってきた。人近い日本人、亡命ドイツ共産党員・コミンテルン関係者人近い日本人、亡命ドイツ共産党員・コミンテルン関係者の大三七年末当時のモスクワで、国崎ばかりでなく一〇〇ツ人妻フリーダと娘タツコの証言から、国崎が銃殺されたかったが、西ベルリンに奇跡的に生存していた国崎のドイかったが、西ベルリンに奇跡的に生存していた国崎のドイ

スターリン主義・粛清研究などから、一見矛盾するかに見スターリン主義・粛清研究などから、一見矛盾するかに見まれている。 しかしこれも、東欧「人民民主充るコミンテルンの統一戦線・人民戦線における反対派粛清えてきた。それは、スペイン人民戦線における反対派粛清えてきた。それは、スペイン人民戦線における反対派粛清えてきた。それは、スペイン人民戦線における反対派粛清えてきた。それは、スペイン人民戦線における反対派粛清えてきた。それは、スペイン人民戦線における反対派粛清えてきた。それは、スペイン人民戦線における反対派粛清に亡命しスターリン粛清をくぐりぬけた共産主義者とで、中人の大馬」の実行過程であった。

ることが確認できた。 術」レベルの、共産党独裁のためのマヌーヴァーにとどま、統一戦線・人民戦線とは、「戦略」ではなく、あくまで「戦

―― 軍事的集権規律の末端までの浸透四、単一世界政党としてのコミンテルン

理論から解いてみようと考えた。主義の唯物史観からではなく、政治学の一分野である政党ざす「単一世界政党」であることを、マルクス・レーニン「唯一前衛党」という概念と、プロレタリア世界独裁をめンテルンの組織構造に行き着いた。コミンテルンが唱えるンテルンの組織構造に行き着いた。コミンテルンが唱える

生まれたもので、M・オストゴルスキー『民主主義と政党生まれたもので、M・オストゴルスキー『民主主義と政党の共産主義政党は、無視されるか、特異な例外的事例として扱われていた。本来社会の一部(part)である政党(party)が、「社会と国家の架け橋」の役割を越えて、単一政党制が、「社会と国家の架け橋」の役割を越えて、単一政党制が、「社会と国家の架け橋」の役割を越えて、単一政党制が、「社会と国家の架け橋」の役割を越えて、単一政党制で扱われていた。本来社会の一部(part)である政党(party)が、「社会と国家の架け橋」の役割を越えて、単一政党制で扱われていた。本来社会の一部(part)である政党(party)が、「社会と国家の架け橋」の役割を越えて、単一政党制で扱われていた。本来社会の一部(part)である政党(party)が、「社会と国家の架け橋」の役割を越えて、単一政党制が、「社会と国家の架け橋」の役割を越えて、単一政党制を表しているとみなされたからである。ただし、R・ミヘルスのドイツ社会民主党(SPD)の体験的分析し、ミヘルスのドイツ社会民主党(SPD)の体験的分析し、ミヘルスのドイツ社会民主党(SPD)の体験的分析し、ミヘルスの学院を関する。

14

級的課題よりも人類的課題)を提唱するにいたった。 何よりも、ソ連共産党書記長にゴルバチョフが就任し、 拠づけるネオ・マルクス主義も理論的に成熟し、プロレタ レストロイカ(改革)、グラースノスチ(情報公開)、新思考(階 リア独裁やレーニン「国家と革命」の呪縛から離れていた。 手論文と、大部の著作の間には、約一○年の時間差があっ た。その間に、 著作のもとになった名古屋大学『法政論集』連載の先述助 ンテルンの世界像』(靑木書店、一九九一年)だった。 総体を問題にしたのが、私の博士論文にあたる著作「コミ 政党、①イデオロギー政党、の各レベルからコミンテルン その四つの特質、①単一世界政党、②労働者政党、③革命 いわゆるユーロコミュニズムと、それを根 この

争を歴史的に追った『コミンテルンの世界像』は、 欧革命と社会主義』(一九九〇年)、「ソ連崩壊と社会主義」 動きを、私は『国家論のルネサンス』(一九八六年)、『東 (一九九二年)などで論じてきたが、コミンテルンの網領論 コスロヴァキア「ビロード革命」に代表されるこの時代の 民衆の市民革命によって打倒された。そのまま冷戦崩壊・ が弱まると、たちまちコミンテルン系譜の共産党政権は、 ソ連解体へと進んだ。東独「ベルリンの壁の開放」やチェ である中東欧社会主義国のソ連邦への軍事的・政治的従属 その一環として、東欧「人民民主主義」革命以来の伝統 コミン

テルンとマルクス・レーニン主義の世界革命戦略・戦術の

にも拡延された。 関係から、共産党と労働組合・農民組合・青年婦人組織等 共産党の間の関係、各国共産党内部の指導者と一般党員の 大衆団体との関係にまで導入され(=伝導ベルト論)、 モスクワのコミンテルン執行委員会と各国支部=各国

も社会・国家としても、「民主集中制」以外の組織原理を 国有化と集権的計画経済の経済原理、にまで拡張された。 心とした「社会主義共同体」の軍事同盟・安全保障の原理、 義国家の組織原理とされ、憲法にまで書き込まれた。戦後 デオロギー的集権化が進んだ。何よりも、ソ連では社会主 リン時代には指導者への反対即異端者・裏切り者とするイ まだ党内討論・異論の自由の余地が残されていたが、スター 持たなかった。 の中東欧社会主義でも、国家原理であると共に、ソ連を中 「民主集中制」は、レーニンがそれを採用したときには コミンテルンを起源とする共産主義は、党として

日本共産党の「一九三二年テーゼ」の「帝国主義戦争反対 邦の外交・安全保障政策に事実上従属するものとなった。 派抑圧や「左右の日和見主義」批判の規律強化に用いられ、 の過程で各国支部=各国共産党レベルでも不満分子・反対 的共産党」の原理が、一九二〇年代の「ボリシェヴィキ化」 一九三〇年代になると、コミンテルン組織の全体が、 こうして当初の「世界革命のための革命的情勢下の軍隊

批判的総決算として意味づけた。

16

ナルと差別化する「前衛党」の必須要件としていた。 達の「鉄の規律」「軍隊的規律」を、第二インターナショ (一九二五年)では、上級の決定を無条件で実行する上意下 入条件二一ヵ条」(一九二〇年) や各国共産党用 「模範規約」 集権制 (民主集中制) 」 の意味であった。コミンテルンの「加 党をその支部として従属させる組織論、「民主主義的中央 それは、そもそも「単一世界政党」を可能にし、各国共産 しかし、もう一つ、論じなければならない問題があった。

戦後「革命的情勢」下の状況的限定が付されていた。 全党員の信頼を得た権能ある権威ある機関である場合にだ 律に近い鉄の規律がおこなわれ、党中央部が全権を持ち、 期には、党が最も中央集権的に組織され、党内に軍事的規 階では、 ただし一九二〇年第二回大会「加入条件二」ヵ条」の段 共産党は自己の資務を果たすことができる」という、 **「民主集中制」は、「現在のような厳しい内乱の時**

組織構造は「民主集中制」とされ、共産党の加わる統一戦 線政府の要件ともされた。この「唯一前衛党」の組織原理 ショ統一戦線」期に入っても、コミンテルンの組織原理と 一九二八年以降の「第三期」、一九三四年以降の「反ファッ =各国共産党の「ボリシェヴィキ化」が義務づけられた。 に入ったために、「全般的危機」論が必要とされ、各支部 それが、世界革命に至らず「資本主義の相対的安定」期

干渉戦争反対」の後衛部隊としての役割だった。 も、あくまで「社会主義の祖国ソ連邦に対する帝国主義の

五、コミンテルンの軍隊的規律 「民主集中制」の歴史的位置

物にまとめた。 原理を肌で感じ、根本的疑問を持った。後にそれは、 警察シュタージによる監視国家であることを知った。 当時 と閉塞した社会、教条的文化のなかでの生活で、この組織 『社会主義と組織原理 I』(一九八九年)という小さな書 会則を集めて比較検討した。それをベルリンの壁開放の頃、 平連や市民運動・NPOなど考え得る多様な組織の規約や 党を含む各種政党、アナーキズムから労働組合、日本のベ それにドイツ社会民主党の組織論を調べた。同時に保守政 スらの共産主義者同盟、バクーニンの国際社会民主同盟、 は「民主集中制」はマルクスから始まるとされていたから、 一九世紀の協同組合社会主義、一八四八年革命時のマルク 私は、今は消滅した旧東独=ドイツ民主共和国での研究

愛的平等」型、② その対極で、 して、(1) 初期社会主義のなかの、R・オーウェンの「ニュー・ ハーモニー準備社会規約」(一八二五年)を典型とする「友 そこでは、 一九世紀ヨーロッパの社会運動の組織の型と 一九三九年に武装蜂起

の一八五〇年規約)を見出した。 の一八五〇年規約)を見出した。 の一八五〇年規約)を見出した。 の一八五〇年規約)を見出した。 の一八五〇年規約)を見出した。 の一八五〇年規約)を見出した。 の一八五〇年規約)を見出した。 の一八五〇年規約)を見出した。 の一八五〇年規約)を見出した。 の一八五〇年規約)を見出した。

さらに、(4) ラサール派全ドイツ労働者協会(ADAV) さらに、(4) ラサール派全ドイツ労働者協会(ADAV) でらに、(4) ラサール派全ドイツ労働者協会(ADAV) で一八六三・七二年規約の「指導者独裁」を排し、アイゼナー八六三・七二年規約の「指導者独裁」を排し、アイゼナー八六三・七二年規約の「指導者独裁」を排し、アイゼナー八六三・七二年規約の「指導者独裁」を排し、アイゼナー八六三・七二年規約の「指導者独裁」を排し、アイゼナー八六三・七二年規約の「指導者独裁」を排し、アイゼナー八六三・七二年規約の「指導者独裁」を排し、アイゼナー八六三・七二年規約の「指導者独裁」を排し、アイゼナーバ六三・七二年規約の「指導者独裁」を排し、アイゼナーバ六三・七二年規約の「指導者独裁」を排し、アイゼナーバ六三・七二年規約の「指導者独裁」を排し、アイゼナーバ六三・七二年規約の「指導者独裁」を排し、アイゼナーバ六三・七二年規約の「指導者独裁」を排し、アイゼナーバ六三・七二年規約の「指導者独裁」を持ついて、第一の四型を加出し、詳しく展開した。

革命と社会主義』などで特徴づけた。革命の組織原理を「フォーラム・円卓会議型」と、『東欧革命の組織原理を「フォーラム・円卓会議型」と、『東欧

一九九一年一一月に東京で開催された、ローザ・ルクセンブルク国際シンポジウムでは、一九世紀の四つの型をに、二〇世紀末の「フォーラム・円卓会議」型までつなぐために、二〇世紀コミンテルン創立前の社会主義運動から見いだした、三つの型を追加して報告した。そこでは特に、ローザ・ルクセンを与えた。

18

後の一九一八年ワイマール、一九二五年ハイデルブルク大 したR・ミヘルスは、この期の体験から一九○七年にはS 権」型への転成を見いだした。ロシア社会民主労働党の 約的分権」から出発しながらも議員集団中心の集権化が進 的統一よりも日常的利害・政策実現を重視し、理論・世界 認め、国家官僚制とは必ずしも癒着しない点、イデオロギー だし、議会選挙を通じて選挙民の監視を受け、権力分立を 会規約へと継承され、今日のSPD組織の原型となる。た 一九一二年ケムニッツ大会改正規約、さらには第一次大戦 Dの「官僚的集権」の特徴は、一九○九年ライプツィヒ大会、 PDを離れ、かの「少数支配の鉄則」をひきだした。 SP 権化」として歓迎した。逆に、一九〇二年にSPDに入党 レーニンは、このSPDイエナ大会の規約改正を「中央集 観上は「多元主義」を認める点で、 二〇世紀初頭のドイツ社会民主党(SPD)では、「契 (5) 一九〇五年のイエナ党大会規約以降の「官僚的集 ロシア起源の「軍事的

集権型=民主集中制」とは区別される。

一一「連合的分権」型の意義 六、ドイツ共産党結党時のローザの遺言

表現されている。

表現されている。

表現されている。

表現されている。

表現されている。

表現されている。

を経験し、一九一八年末のKPD創立にあたっては、「東パルタクス・ブント活動で「批判と独自活動の完全な自由」第二に、ローザは、独立社会民主党(USPD)内のス

4.4

1 4.76

をもっていた。 新インタナショナル=コミンテルン結成にも、慎重な考え産党」ではなく「社会党」の党名を主張した(三対四で敗北)。方の革命家と西ヨーロッパの社会主義者を結ぶ」ため、「共

一九一九年KPD規約にローザは直接関わりえなかった一〇月の第二回大会で承認・発効した。したがって、このに草案が起草され、六月の第一回全国協議会で討論・採択、カール・リープクネヒトの悲劇的虐殺の後、一九一九年春第四に、KPD創立大会では規約案文はなく、ローザと

イツ的伝統」が残されていた。 ・ は、除名処分者の異議申し立て・仲裁裁判などの「ド承認による独自規約制定権や、USPDから継承した複数定され、中央集権化した。それでもこの規約には、上級の定され、中央集権化した。それでもこの規約には、上級の定され、中央集権化した。それでもこの規約には、上級の定され、中央集権化した。それでもこの規約には、上級の定が、上、方では、「決合流により、」九二〇年規約が作成された。そこでは、「決合流により、」九二〇年規約が作成された。そこでは、「決合流により、」九二〇年規約が作成された。そこでは、「決合流により、」

織とその指導部の決定は無条件に実行されなければならな 自己の隊列内では厳格な規律を保たなければならない。組 複数議長制が廃止されて政治局・組織局が設けられ、新た 「軍事的規律」)が、ドイツ労働運動史上初めて、明記された。 で義務とされた「民主集中制」(=「最も厳格な中央集権制」 に「規律」の章が入り、「KPDは中央集権的党組織であり、 党が「コミンテルン模範規約」(一九二五年)にそった組織 さらに、一九二三年の十月闘争敗北の教訓として、「分派 全にローザの「連合的分権」から離れ、ロシア型に近づく。 キズム」とともに批判され、世界のほとんどの支部=共産 や潮流やグループの存在を許さない中央集権的な党」「単 い」と規定された。ここに、KPDは、組織原理上は、完 を強制される。KPDではそれが、一九二五年党規約とな イツの教訓」に基づき「ルクセンブルク主義」は「トロツ 一の魂から鋳られた一枚岩の党」の欠如が指摘された。「ド 翌一九二一年のKPDイエナ大会規約で、「二一ヵ条」

考えることができる。が、その内容からして、ローザの党思想を反映したものと

20

そこにくみこまれた。一九二〇年八月のコミンテルン加で 条件「二一ヵ条」採択と、一二月のUSPDのKPDへの により第三インター=コミンテルンが結成され、KPDは にもかかわらず、レーニン、ジノヴィエフらの強引な指導 だKPD代表(エーベルライン)の反対(最終的には棄権) 党務部)用の行動規約を明示していた。これらはいずれも、 ず反論権のみ。⑧各級有給専従職員(沓記・機関紙部・宣伝部・ 二五%、USPD(独立社会民主党)二〇%より低い。 一九世紀以来のドイツ労働運動の伝統の一部であった。 地方機関紙は独立であり、 監視しあう。⑥党費中央上納は一〇%で、当時のSPD 中央委員(女性・青年代表含む)は完全に同権で、相互に 監督機関は特に設けないが選挙・リコール制を徹底し、 派の主張の実現)。⑤党大会で選ばれる中央委員会への統制 完全比例代表制で、最低年一回開かれる(SPD内での左 PD型)でなく経営中心で下から組織される。④党大会は 似)。②地方組織は「党の原理と党決議の範囲内で自立的」 で「独自規約」 制定権をもつ。③地方組織は選挙区単位 (S 条から成る、極めて短く簡潔な規約である(SDAPと近 しかしこの間、一九一九年三月に、ローザの遺志をつい その特徴は、次の通りである。①前文なしでわずか八ヵ 中央委員会は編集権に介入でき

権化」を完成する。的伝統から完全に遊離し、「ボリシェヴィキ化=軍事的集により、KPDは、こうしてドイツ労働者政党の長い組織る。ローザの危惧した「早すぎたインターナショナル結成」

共産党と国際共産主義運動における「コミンテルン的伝統」 るユーロコミュニズムの中でも、イタリア共産党やフラン 理=「民主集中制」こそ中核ではないかと考えた。いわゆ ロレタリア独裁の承認」や階級闘争至上主義、生産力主義 とは、「コミンテルン網領」 (一九二八年) に体系化される 「プ 革命の原動力になった。それは、コミンテルンも一九世紀 諸個人の水平的結合と自治をもとにした社会運動が、 派をまきこんで、「連帯」「フォーラム」「円卓会議」など 労働・宗教・文化・芸術・スポーツなど多様な分野の反対 運動が、一九六八年「プラハの春」の頃から自生的に生まれ、 国の中では、共産党独裁に対抗する新しい組織原理の社会 民主主義を」という視点が生まれていた。中東欧社会主義 ス共産党、イギリス共産党の中から「民主集中制ではなく よりも、むしろ一党独裁・指導者独裁を可能にする組織原 以来のインターナショナル運動をも超えるものであった。 こうして私は、コミンテルンとその後の後継組織、各国 二一世紀の変わり目から、反グローバリズム運動、反戦

さまざまな社会運動の中

平和運動、環境・気候運動などの社会運動に、ローザ・ル

クセンブルクが萌芽的に提示し、

原理の日本への紹介で、基本的に完了した。 一つにまとまる「世界社会フォーラム」型社会運動の組織 模索は、日本共産党「創立記念日の神話」についての個別 研究や反原発運動の軌跡を探りながらも、多様性を前提に

旧ソ連秘密文書公開後の世界と 日本のコミンテルン研究

「民主集中制」への私なりの批判・相対化にもとづいて『コ および二〇世紀後半のドイツ社会民主党等社会主義イン ミンテルンの世界像」で予告した「コミンテルンの日本像」、 ショナルに起源を持つ社会民主党・労働党等に復帰した。 産党は崩壊・解体し、多くの共産主義者は第二インターナ 析の主たる対象としてきたヨーロッパのコミンテルン型共 一九八九年東欧革命・九一年ソ連解体で、私が批判的分

ム風コミンテルン研究をもとにして、日本でも江崎道朗ら た。そのなかで邦訳された『アメリカ共産党とコミンテル ン」「ヴェノナ」など、アメリカでのネオ・マッカーシズ 研コミンテルン文書館のフィルソフら文書解読の専門家ま 散し、特にアメリカでは、ソ連崩壊で失職した旧ソ連ML で自国に招聘し、次々と資料集・研究書を出すようになっ し閲覧したが、未公開だった秘密資料はたちまち世界に拡

1993-) が、モスクワから流出したコミンテルン秘密資料を用い 鑑】(Jahrbuch für Historische Kommunismusforschung, JHK マン・ヴェーバー教授らの始めた『歴史的共産主義研究年 代わって、 壊に合わせ、 共産主義事情年鑑」(Yearbook on International Communist 宝庫であったスタンフォード大学フーバー研究所の『国際 たこともある私の主たる活用は、インターネット上のJ た世界の新研究の交流の場となった。出版元をすでに三社 Affair 1966 - 91) は、対抗してきたソ連・東独ML研の崩 Electric Archivesが一時的に生まれたが、今日では大英 HKサイトに移った。インターネット上には、Comintern も換えて出版は続いているようであるが、かつて寄稿し かつてコミンテルン及び国際共産主義運動の西側研究の 一九九三年からドイツ・マンハイム大学のヘル 一九九一年版を最後に廃刊になった。それに

> て煩わしかったことも、その一因だった。授らを公然と政治的に批判してきたことが学術研究にとっ 残り、「民主集中制」だけは死守しようと私や藤井一行教 東欧型から一応決別しながらも「東アジア型」として生き 衰退・消滅で執筆意欲を失ったこと、日本共産党がソ連・ あった「社会主義と組織原理 Ⅱ」は、公刊しないことに した。「コミンテルン的伝統」という批判対象そのものの ペインの生産者労働組合から日本のベ平連等に及ぶはずで ターナショナルからイギリス労働党と労働組合の関係、

ンの日本人」という研究書にまとめた。ア」の三部作をまとめ、最終的には『ワイマール期ベルリア』の三部作をまとめ、最終的には『ワイマール期ベルリ された日本人】「人間 方をひとりひとり第一次資料から追って『モスクワで粛清 清の真相から調べ始め、当時の在露日本人約一〇〇人の行 具体的に知ることができるようになったことであった。 りわけ幹部人事や党財政、「民主集中制」運用の実態を、 かがい知れなかったコミンテルンと各国共産党の内実、と 所蔵してきた膨大なコミンテルン秘密文書が閲覧可能にな 旧ソ連共産党中央委員会マルクス・レーニン主義研究所が 一九七〇年代から気がかりだった国崎定洞のスターリン粛 だが、それ以上に大きかったのは、ソ連崩壊に前後して 公式記録・機関紙誌や大会議事録・決議決定集ではう 国崎定洞』「国境を越えるユートピ

一九九〇年代にはモスクワに通って公文書館で資料請求

図書館の Communist International (Comintern) Archives テルン研究の基礎条件が大きく変わった。 地戦」に続く、二一世紀の「情報戦の時代」には、コミン るようになった。つまり、一九世紀「機動戦」、二〇世紀「陣 ングリストが作られ、ウェブ上で検索され、研究交流でき 国ごとの資料集や研究についてのニューズレターやメーリ Communist International 1919 - 1943、それに各地域・各 Project & Marxists Internet Archive 육 S History of The

れた。 (6) お田春樹編訳『コミンテルンと日本共産党』も刊行さ武・和田春樹編訳『コミンテルンと日本共産党』も刊行さ ことができるようになった。その主要文献を編纂した富田 国会図書館憲政資料室ほかいくつかの大学図書館で見る RGASPI)に集積されていたコミンテルンの日本問題資料 (Comintern Archives: Files of Communist Party of Japan) & モスクワのロシア国立社会政治史文書館(ルガスピ

鬼丸武士のヌーラン事件と東南アジア共産党ネットワーク ン内戦研究、等々である。東アジアについても、石川禎浩(窓) の研究、島田顕のディミトロフ文書等の読み直しとスペイ ナ共産党を素材とした「コミンテルン・システム」の研究、 のアジアでの共産党成立過程の研究、栗原浩英のインドシ テルン研究の土台となった。山内昭人の初期コミンテルン 党の新資料公開・交信記録発掘が、日本でも新しいコミン ソ連崩壊前後から、コミンテルンと各国支部=各国共産

22

及しているので、それらを参照していただきたい。 下や『大原社会運動研究所雑誌』第七三七号等で詳しく言 井一摩らの示唆的分析視角が現れてきているが、それらに ついては、『初期社会主義研究』第二九号論文の第九章以 よる研究があり、テーマは別だが藤野裕子、斎藤幸平、堀 一次共産党研究をはじめ、福家崇洋らの新たな問題意識に ジア冷戦史研究も「コミンテルン一〇〇年」に関連する。 (空)の延長上での富田武のシベリア抑留研究や下斗米伸夫のア 会主義」として総括した。さらに、ロシア史・ソ連史研究(3)。(3)。 (3)。 (4) 東京の計画の計画の計画のでは、「原爆反対・原発推進の論理」を『日本の社 震災・福島第一原発事故を契機に、日本の平和運動全体に合法共産党研究などにたずさわり、二〇一一年の東日本大 中国共産党日本人部、それに国場幸太郎らの占領期沖縄非 東亜同文書院や満鉄関係者も加わりゾルゲ事件も関係する 頭銀一・ジョー小出・宮城与徳らの米国共産党日本人部、 定洞・千田是也らのドイツ共産党日本人部、健物貞一・鬼 なお、日本共産党史についても、黒川伊織の画期的な第

・コミンテルンの「感染力」と 防疫・反共体制の制度化

24

れる副次的な遺産に触れておこう。 の中で見出した、コミンテルンの伝統が産み出したと思わ ナ・パンデミックと自分自身の入退院を繰り返す療養生活 ネットワーク論と重ね合わせたい誘惑に駆られるが、 集団的認識の関係理論、情報論のコミュニケーション論・ 以上のコミンテルン一〇〇年を、認識論の個人的認識と 唯物論研究の若い世代にお任せしよう。最後に、 コロ

をつくるものであった。(**)(***)を恐れて「防疫・治療」体制になぞらえ、その「感染力」を恐れて「防疫・治療」体制 防保安法、破防法、国家機密保護法、スパイ防止法など、 それは、 権力側のコミンテルン対策、共産主義浸透防止策があった。 制と似ていることである。日本で言えば、治安維持法、 立法・安全保障政策であり、 それは、世界的な反コミンテルン・反共運動と各国治安 ロシア革命とコミンテルンの影響力を「伝染病」 それが伝染病への「防疫」体

を踏まえた「三大革命勢力」の階級闘争、暴力を含む世界 で、世界資本主義の限界を越えた経済発展に活路を求めた。 一九二八年のコミンテルン世界網領は、世界の「四大矛盾」 コミンテルンの共産主義論は、生産力主義・科学主義

世した。帝制る打倒しワイマール民主制を迎えたドイツで 想起すべきであろう。 虐殺とともに「主義者」弾圧に用いられたことも、 禁止令が米騒動を収束に向かわせた。関東大震災が朝鮮人民宰相」原敬自身が感染し、伝染病に対する戒厳令や外出 ば、マックス・ウェーバーが生命を落とした。日本でも「平

治勢力にとって、世界政党コミンテルンによる共産主義思 ウィルス」による伝染病の一種であった。 想の世界伝播は、まさしく「革命の輸出」「外国からの黴菌・ ンテルン同盟であることを明示していた。権力にあった政 持法は共産主義の脅威に対して成立し、日独同盟は反コミ 想統制のような反共産主義の権力があった。日本の治安維 ア・ファシズム、ドイツ・ナチズム、天皇制日本の言論思 ロシア革命に始まったコミンテルンの時代にも、イタリ

構築を意味する。 戦後のフランスの対ソ政策、「cordon sanitaire (防疫線)」 発想にもとづいていた。もともとはロシア革命と第一次大 Containment」政策自体、「検疫と隔離」の感染症対策の 側冷戦政策のもとになるジョージ・ケナンの「封じ込め のフーバー議長は、共産主義を伝染病ときめつけた。西 「反共主義」も増殖された。東西冷戦の時代、米国FBI ミンフォルム、国際共産主義運動にも伝統は引き継がれ、 コミンテルンは戦時一九四三年に解散したが、戦後のコ つまり、近代の感染症対策と思想対策は、

核兵器すら資本主義との闘争手段に取り込もうとした。 も注目・期待し、 連共産党は、電力と機関車ばかりでなく、核エネルギーに 実上ソ連国家の外交と安全保障の衛星機関となったが、 うとするものだった。一九三〇年代のコミンテルンは、 気候変動を含む自然の変容を、人間の力で操作し改造しよ た。国家権力の死滅、労働時間の短縮はその先にあった。 らかな、急速な上昇にもとづく経済の円滑な発展」を夢見 御した「自然力とのたたかい」「生産力の限りない」なめ 革命の果てに、「生産の無政府性」を科学技術の発展で制 戦後の科学技術革命論は生物化学兵器、

スヴェルドロフ全露中央執行委員会議長は、この病気で死 が感染し、「ボリシェヴィキの黒い悪魔」ことヤーコフ・ シア革命直後のモスクワ、レニングラードでは二人に一人 国・中央同盟軍双方における兵士の疫病蔓延があった。 第一次世界大戦終結の歴史的要因と見なされるようになっ を求めるロシア革命や「帝制打倒」のドイツ革命と共に、 年の「スペイン風邪」は、かつての「パンと土地と平和」 た。二〇世紀最大のパンデミックであった一九一八-二〇 どのほかに、風土病や伝染病も「自然の脅威」とみなされ のであった。火山爆発、地震、津波、ハリケーン、 いても、「自然力とのたたかい」は、唯物史観を超えるも 今日から振り返ってみると、コミンテルンの創立期にお アメリカ参戦起源の「スペイン風邪」の猛威で、連合

きた。伝染病の「検疫」と言論思想の「検閲」は、相似形 治安維持の二つの柱として、相互に干渉し合って発展して

救済史、宗教史の一齣かもしれない。 神なき状態の精神」「民衆の阿片」と呼んだ、人間精神の 関係史であり、初期マルクスが「悩めるもののため息」「精 もっともこれらは、人類史の初発からの人間と自然との

描かれた。 コレラなど伝染病の恐怖と革命思想の流布がメタファーで 牲になる様子が描かれた。ドストエフスキーの小説では、 本論」には、過酷な労働環境のもとで労働者が伝染病の犠 宣言」は「共産主義という妖怪」と比喩的に自己規定し、「資 ダヤ人が生け贄とされた。マルクス・エンゲルス『共産党 神に祈るしかなかった。中世のペスト(黒死病)では、 まともな治療法も薬もない時代には、「悪魔払い」など ュ

を取り締まるべきである」「不穏な思想は〈萌芽ノ間ニ摘去〉 には〈言論学問ノ自由〉を犠牲にしても〈集会結社演説著作〉 族道徳ノ根本〉に〈爆弾〉を投げつけるものだから〈全力 ヲ尽クシテ其ノ根絶〉を計らなければならない。 そのため の脅威を説いた。「社会主義は〈天賦神聖ノ国体〉と〈民 会主義や無政府主義を伝染病になぞらえて、外来思想蔓延 墩主義論」(一九一○年)が、明治天皇に建白される際、社 日本では陸軍と内務省の生みの親、山縣有朋の「社会破

向」という思想善尊であった。 も拡げられた。その「治療」政策として採用されたのが、「転学術研究会・読書会、芸術文化運動・組織、新興宗教等に

法のような「防共」制度を作った。 の公安調査庁、内閣調査室などの情報組織が権力中枢に根 付いた。各国は「国益」に即して機密保護法やスパイ防止 のに対抗し、CIA、MI6、イスラエルのモサドや日本 の共産主義国家がKGBや公安部のような課報組織を持つ 力に敵対する「異教」対策がシステム化した。ソ連や中国 した「社会主義・共産主義」への「伝染病」対策、国家権 ンは解散したにもかかわらず、 第二次世界大戦後には、すでに組織としてのコミンテル コミンテルンが世界に拡散

全保障」「危機管理」に組入れる制度化が進んだ。 病」の細菌・ウィルスの可能性を見出し、それを「国家安 の残滓ばかりでなく、民主主義や自由主義思想にも「伝染 保守的ポピュリズムと結びつき、コミンテルン型共産主義 連合のような「反共」運動が、それぞれの国の国家主義・ 再武装 (MRA)」運動、韓国出自の統一教会・国際勝共 そればかりでなく、アメリカのマッカーシズムや「道徳

イの伝統と道座

襲独裁・ロシアの旧KGB指導者独裁などに「遺産」とし 革命・冷戦崩壊・ソ連解体で基本的に崩壊・衰退したにも かかわらず、その伝統の一部が中国共産党支配・北朝鮮世 実体としてのコミンテルン的伝統が、二〇世紀末の東欧

> な「臣民」に組み込んだ。 ⁽⁸⁾ 地とし、優生思想にもとづき、朝鮮人を帝国日本の「劣等」 された大逆事件の頃で、社会主義や無政府主義を国家体制 者は穂積八束といわれるが、ちょうど幸徳秋水らが死刑と への反逆と結びつけた。同時に日韓併合で朝鮮半島を植民 しなければ、〈国家の大患〉となる恐れがある」-

行為」=目的遂行罪によって、民主主義・自由主義思想、 産党を想定した取締対象は、その「目的遂行のためにする た。治安維持のために国体変革や私有財産否定を謳った共 太田耐造ら司法省の思想検察が担い「日本法理」が作られ 直接に担うが、その思想的・政策的基礎づくりは塩野季彦・ 思想感染対策は内務省特高醫察・外事醫察、陸軍憲兵隊が 思想政策は、一体だった。感染対策は内務省地方局から 一九三八年に分化した厚生省と陸軍軍医学校防疫研究室、 する防疫・感染政策と社会主義・共産主義に対する言論・ 思想の取締と「転向」強制、とりわけ伝染病・結核に対 とその「スパイ」の摘発と隔離・追放、国内の反「国体」 査と隔離」が使われ、共に内務省の仕事となった。外国人 ス流入を阻止する検疫・防疫体制とのメタファー=「検 に至る治安体制・思想統制には、外部からの黴菌・ウィル 紀末に作られた。一九二五年の治安維持法、その後の戦争 大きな仕事であった。伝染病予防法と治安警察法は同じ世 山縣有朋の思想で作られた内務省は、地方統治と警察が

伝播」なのかもしれない。 の遺産で一番深刻なのは、 かさむばかりである。権力と資本にとって、コミンテルン 制度化された。そのためのインテリジェンス要員と費用も で、イデオロギー的「防疫」監視体制・情報戦は継承され、 民主主義と人権を守る運動が二一世紀に継承され、「コミ ンテルン・ウィルス」の培養・増殖基になりかねない限り 案外この副次的側面での「思想

注

- 1 加藤哲郎 「バンデミックの政治学」 花伝社、二〇二〇年、加 二〇二二年。 藤哲郎・小河孝共著『七三一部隊と一○○部隊』 花伝社、
- 2 本稿での「初期社会主義研究」第二九号掲載論文の「再使用」(い 授ら同誌編集委員会の了承を得た。わゆる「使い回し」)については、山泉進教授・田中ひかる教
- 日」の神話学」(「情況」二〇〇六年六月号)、加藤哲郎 「日本 二〇一三年)など参照。 の社会主発 社、二〇〇六年)、加藤「国家権力と情報戦-井上學編著『社会運動の昭和史-加藤哲郎「党創立記念日という神話」加藤哲郎・伊藤晃 -原爆反対・原発推進の論理』(岩波現代全掛 -語られざる深層』(白 - 「党創立記念

5 唯物論関係では、この間大阪唯物論研究会の流れから生まれ 藝春秋』二〇二〇年八月号、など。 二〇二二年、池上彰・佐藤優「日本左翼一〇〇年の総括」『文 新書、二〇二二年、佐藤優『日本共産党の百年』朝日新聞出版、 中北浩爾『日本共産党 - 「革命」を夢見た一〇〇年」中公

断念する。 ルンの伝統と遺産」を見る際の重要な視点であるが、今回は 以後の日本の科学者運動の歴史を解明することは、「コミンテ 国唯物論研究団体の史的展開、及び戦後民主主義科学者協会 二〇二一年)を寄稿してきた。戦前唯物論研究会以来のわが 年)や加藤「マルクス主義国家論の回願・再論」(一五七号、 社会科学の一部となったグラムシ」(第一三九号、 た田畑稔氏らの『季報 若い世代の研究に期待する。 唯物論研究』誌に、加藤哲郎「現代 二〇一七

は世界中で出ている。 外川維男・高橋武智訳、ちくま学芸文庫、二〇一七年、 し旧ソ連秘密文書による各種資料集や各国別・問題別研究書 年、ステファヌ・クルトワ他『共産主義黒書』原書一九九七年、 テルン史』原書一九九六年、 ケヴィン・マクダーマット&ジェレミ・アグニュー『コミン 栽原直訳、 大月書店、 一九九八

政論集」八〇一八三号、 加藤「世界政党と政策転換」名古屋大学『法政論集』七八‐ 一九七九年、 および「コミンテルンの網領問題」『法 一九七九一八〇年。

国革命』論」上下、『思想』六九三・六九四号、 加藤「三二年テーゼの周辺と射程-六九四号、一九八二年・| コミンテルンの『中進

五月)では、この点で哲学者の芝田進午氏らを批判した。後加藤「現代世界認識の構図」『唯物論研究』四号(一九八一年

10 この時期の問題については、インタビュー一九七〇年代「エ 第一六号、二〇一三年)で、 しく答えておいた。 題研究序説』と七〇年代後期の思潮」(中部大学年報『アリーナ』 ピローグとなった『序説』への研究序説-に『国家論のルネサンス』青木書店、一九八六年、所収。 小島亮らとの対話で、 「スターリン問 質問に詳

11 この点は、加藤「二〇世紀社会主義・革命運動史を二一世紀 ·(法政大学『大原社会問題研究所雑誌』七三七号、二〇二〇年 にどう描くかっ -河西英通著『「社共合同」の時代』に寄せて」

12 加藤『コミンテルンの世界像-三月)で述べておいた。

13 加藤『社会主義と組織原理 青木書店、 一九九一年。 I」窓社、一九八九年。 -世界政党の政治学的研究』

この本

14 日本語では、加藤「ローザ・ルクセンブルクの構想した党組織」 として収録した。 として『ソ連崩壊と社会主義』(花伝社、一九九二年)に「補論」 は少部数発行で、その後絶版になった。

れざる深層』白順社、二〇〇六年、 社、二〇〇三年。加藤前掲『情報戦の時代』『情報戦と現代史』、 加藤哲郎・伊藤晃・井上學編著『社会運動の昭和史-世界は可能だ! =ハート序文、加藤監修・大屋定晴ほか監訳『もうひとつの 二〇〇三年五月一三日号、 加藤「反ダボス会議のグローバリズム」『エコノミスト』 (Another World Is Possible)』日本経済評論 フィッシャー=ポニア編、ネグリ など。

および中部大学『アリーナ』第二〇号、二〇一七年に加藤が 育史料出版会、一九九〇年)への加藤哲郎や藤井一行の寄稿、 この点は、松岡英夫・有田芳生編『日本共産党への手紙』(教

編集し収録した藤井一行遺稿集、加藤「米国共産党日本人部

テルン』五月書房、二〇〇〇年、クレア=ヘインズ編『ヴェノナ』 クレア=フィルソフ=ヘインズ編『アメリカ共産党とコミン の反帝ネットワーク』岩波書店、二〇〇八年。 二〇〇二年、 (川上武と共著)、勁草書房、 洞・山本懸蔵の悲劇』青木書店、一九九四年、『人間 国崎定洞』 「モスクワで粛清された日本人」 -国民国家のエルゴロジー」平凡社ライブラリ 『ワイマール期ベルリンの日本人― 一九九五年、『国境を越えるユー -三〇年代共産党と国崎定 -洋行知識人

の敗戦』PHP研究所、二〇一七年、など。 扶桑社、二〇一九年、江崎道朗『コミンテルンの謀略と日本

富田武・和田春樹編訳『資料集 コミンテルンと日本共産党』 二〇一四年。

ペイン内戦介入政策の全体像』れんが書房新社、二〇一一年、 ける地下活動のネットワークとイギリス政治情報警察』書籍 鬼丸武士『上海「ヌーラン事件」の闇-年、同「戦争と平和、そして革命の時代のインタナショナル」 主義者 書房、 イン内戦 ステムとインドシナ共産党』東京大学出版会、二〇〇五年、 九州大学出版会、二〇一六年。栗原浩英『コミンテルン・シ 潜・ボリシェヴィキ・アメリカレフトウィング』ミネルヴァ 山内昭人『リュトヘルスとインタナショナル史研究 一九九六年、同『初期コミンテルンと在外日本人社会 二〇一四年、島田顕『ソ連・コミンテルンとスペ 越境するネットワーク』ミネルヴァ書房、二〇〇九 -モスクワを中心にしたソ連とコミンテルンのス たユートピア -戦間期アジアにお

政府・共和国論』図書新聞、二〇一二年、など。

21 「初期コミンテルンと東アジア」研究会編著『初期コミンテ における抵抗と弾圧」日本経済評論社、二〇一七年、 兒嶋俊郎「日本人共産主義者の闘い-事務局」荻野富士夫・兒嶋俊郎・江田憲治・松村高夫『「満州国」 政治史研究」勁草書房、二〇〇二年、鄭栄桓『朝鮮独立への陰 党成立史』岩波書店、二〇〇一年、田中仁『一九三〇年代中国 ルンと東アジア』不二出版、二〇〇七年、石川禎浩『中国共産 在日朝鮮人の解放五年史』法政大学出版会、二〇一三年、 -日本共産党満洲地方 など。

22 加藤前掲『日本の社会主義』。これまで注記してきたもののほ 平凡社新書、二〇一四年、なども参照。 全三巻、 か、加藤・鳥山・森・国場編『戦後初期沖縄解放運動資料集』 不二出版、二〇〇四-〇五年、 加藤『ゾルゲ事件』

23 富田武『スターリニズムの統治構造-五五年体制へ」岩波書店、 岩波書店、二〇〇六年、 スクワと金日成一 下斗米伸夫の『アジア冷戦史』中公新書、二〇〇四年、 リン独裁下「収容所群島」の実像」中公新書、二〇一六年、同『シ 五六年』人文書院、二〇一三年、同『シベリア抑留』 日ソ関係――一九一七‐三七』岩波書店、二〇一〇年、同『シ政策決定と国民統合』岩波書店、一九九六年、同『戦間期の ベリア抑留者たちの戦後 ,リア抑留者への鎮魂歌 (レクイエム)』人文書院、二〇一九年、 『日ソ戦争 一九四五年八月』みすず書房、二〇二〇年、 -冷戦の中の北朝鮮 一九四五 - 一九六一年」 同『日本冷戦史-二〇一一年、 -冷戦下の世論と運動 一九四五 -など。 -一九三〇年代ソ連の 帝国の崩壊から スター など。 モ

24 黒川伊織『戦争・革命の東アジアと日本のコミュニスト 九二〇一 一九七〇年』有志舎、 二〇二〇年、同『帝国に抗

唯物論 第96号

2022年12月3日発行

発行人 鈴木宗徳

発行所 東京唯物論研究会

〒 194-0298

東京都町田市相原町 4342

法政大学社会学部メディア社会学科鈴木宗徳研究室

E-mail vzr00047@nifty.com

URL http://tokyo-yuiken.jimdo.com/

会費納入先

【振替】00130-6-52188 【加入者氏名】東京唯物論研究会 ※会費は、年額6,000円(自己申告によりOD、地方会員、退職者などは4,000円、学生、院生は2,000円)です。

郵便局で青色の払込票にご記入ください。

製 作 戸倉書院

E-mail tokurashoin@gmail.com

装 幀 岡部哲郎・岡部美穂子

印刷 モリモト印刷株式会社

実費販価 1,000 円

Printed in Japan 本文・写真等の無断転載を禁じます ISBN978-4-905309-15-4 C9002 医師中心の「戦争と医学医療研究会」の雑誌に寄稿した、加工の一四年。福家崇洋「京都民主戦線についての一試論」(『人文学報』一〇四号、二〇一三年、後に「戦後京都と民主戦線」と改稿して庄司俊作編著『戦後日本の開発と民主主義』昭和堂、二〇一七年、所収)、河西英通『「社共合同」の時代――戦後革命運動史再考」同時代社、二〇一九年、など。この点について詳しくは、映画「スパイの妻」を素材に、医学者・下の場合である。

会主義・共産主義史である。 の雑誌に寄稿した、加藤前掲『日本の社会主義』は、この観点からの二〇世紀社加藤前掲『日本の社会主義』は、この観点からの二〇世紀社の防疫政策・優生思想と現代』『戦争と医学』第二二号、

曽我豪「スペイン風邪に感染した平民宰相・原敬」『論座』月閲覧、以下同)。 月閲覧、以下同)。

articles/2020041000001.html、「米騒動収束に影響、

「スペイ

ン風邪」研究会、成果まとめ刊行」Yahoo Japan ニュース

二〇二〇年四月一一日 https://webronza.asahi.com/politics/

引き継ぐ決意を述べて、話題になった。の菅義偉の弔辞は、伊藤博文暗殺に対する山縣有朋の決意を二〇二二年の安倍晋三元首相の「国葬」にあたり、友人代表とする (堀井『国民国家と不気味なもの] 新曜社、二〇二〇年)。

(かとう てつろう・一橋大学名誉教授)

唯物論 96 号 2022.12